

お世話になったみなさま

【派遣団】

- | | | | |
|-------------|--------------|-------------|-------------|
| ■ 青木 貢一 先生 | ■ 黒木 香奈絵 看護師 | ■ 田村 俊介 先生 | ■ 広瀬 美知子 先生 |
| ■ 浅沼 博文 先生 | ■ 小林 秀行 先生 | ■ 手塚 泰文 先生 | ■ 増田 寿子 先生 |
| ■ 荒井 和美 先生 | ■ 齋藤 正興 先生 | ■ 中川 清志 先生 | ■ 益田 矩之 先生 |
| ■ 上野 弘道 先生 | ■ 作原 佐世子 先生 | ■ 中川 若菜 先生 | ■ 由井 麻衣子 先生 |
| ■ 大窪 武彦 先生 | ■ 鮫島 千鶴 看護師 | ■ 蓮尾 芽生子 先生 | ■ 吉見 則夫 先生 |
| ■ 金原 さおり 先生 | ■ 眞谷 彩夏 看護師 | ■ 幅田 慶子 先生 | |
| ■ 金原 正雄 先生 | ■ 高橋 恒彦 先生 | ■ 平林 節子 看護師 | |

(50 音順)

【協力企業・団体】

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ■ DSファーマ アニマルヘルス (株) | ■ (株) トップ ブロードケア事業部 |
| ■ (株) KMY メディカル | ■ 日本医療 (株) |
| ■ アコマ医科工業 (株) | ■ 日本光電東京 (株) |
| ■ 飼い主の会 (OPOの会、299の会) | ■ 日本全薬工業 (株) |
| ■ 木村医科機械 (株) | ■ ノバルティス アニマルヘルス (株) |
| ■ (株) 共同酸器 | ■ ファイザー (株) |
| ■ (株) キリカン洋行 | ■ 富士フィルムメディカル (株) |
| ■ 三幸医化学薬品 (株) | ■ フクダエム・イー工業 (株) |
| ■ (公財) 自然保護助成基金 | ■ ムナテックス (株) |
| ■ (公社) 東京都獣医師会 | ■ 森久保薬品 (株) |
| ■ (NPO) どうぶつたちの病院 | |

(50 音順)

そのほか、小笠原・内地にて多くの方々にご協力いただきました。
ありがとうございました。



小笠原動物派遣診療

およそ 20 年前、小笠原にもともとすんでいる生き物たちを守るため、島の人たちは力を合わせてネコ対策を始めました。

それから約 10 年後、集落のネコ対策を強化するため、(公社) 東京都獣医師会のご協力による動物派遣診療が始まり、内地の獣医師・動物看護師によるペットの健康診断、飼い方指導などが行われました。

9 年間で、延べ 72 名の派遣団の方々に来島いただき、小笠原のペットの診療にあたっていただきました。

そして、このような規模での動物派遣診療の開催は 2016 年をもって最後を迎えました。



しかし、小笠原のネコ対策が終わったわけではありません。

ペット由来の新たな外来種を生み出さないための検討も進められています。

2017 年度から運営が始まった動物対処室では、引き続き、(公社) 東京都獣医師会のご協力を得ながら、常駐獣医師とともに、「人とペットと野生動物が共存して暮らせる島づくり」の実現を目指します。

2017 年 5 月 小笠原ネコに関する連絡会議※

これまでの軌跡

1996 年、「ハハジマメグロがネコに襲われている」との声を受け、小笠原村では野生化したネコを捕獲し、不妊・去勢手術を施し、再び放すこと（TNR）によりネコの自然減を図る「小笠原野ネコ対策事業」を始めました。



1999 年、飼いネコの登録・適正飼養により飼い主のいないネコを生み出さないために、「小笠原村**飼いネコ適正飼養条例**（以下、ネコ条例）」を制定しました。



屋外でも診察



母島南崎の海鳥保護柵を視察



父島ネコまちを視察



保育園で園児向けにおはなし（父島）



↑ 父島



小学校への出前授業



ネコの診察（母島）



屋外で飼い方指導



ネコ対策を飼い主に説明



派遣団用カルテ



ガチョウの診察



名コンビ



2015 年の派遣団とスタッフのみなさん

2006 年、野生化したネコが山域で繁殖し、メグロのほかアカガシラカラスバトや海鳥等の希少な鳥類の捕食者となっていたことから、早急な対策を講じる必要があったため、関係行政機関や地元 NPO による「**小笠原ネコに関する連絡会議**」が発足し、山域のネコ捕獲が本格的に始まりました。最大の悩みであった捕獲されたネコの行き先は、東京都獣医師会のご協力により、内地の動物病院での健康管理と馴化の過程を経て、新たな飼い主に譲渡されるようになりました。

2010 年、ネコ条例を改正し、新たなノラネコ・ノネコを発生させないための飼いネコの管理強化を図った「マイクロチップ装着の義務化」、「不妊・去勢手術」の文言を追加しました。同年、山域で捕獲されたネコを一時飼養する「**ネコまち**」が開所しました。

動物派遣診療の継続とネコ条例の運用は、登録台帳の更新、ネコ対策の周知や飼い方指導による適正飼養の推進、専門的な獣医療の提供につながり、飼いネコの管理とともに飼い主の方にも喜ばれる取組となりました。このように**集落と山域両輪**となって効果がでてきました。

2013 年、父島山域のネコは 10～20 頭程度で推移する低密度状態となりました。しかし、残った捕獲困難なネコの繁殖により、生息数は増加に転じています。そこで、2016 年から罠の密度・稼働数を増やし、新しいタイプの罠を導入して捕獲を進めているところです。



2005 年 母島 南崎

2014 年、母島の南崎ではカツオドリの繁殖が 10 年ぶりに成功しました。小笠原の有人島唯一の海鳥繁殖地である南崎は、ネコによって壊滅的な状態となっていたましたが、海鳥保護柵の設置とネコ捕獲により、2016 年にはカツオドリ 2 羽の巣立ちを確認しています。かつて推定 40 羽とされていた幻の鳥アカガシラカラスバトは、2008 年の国際ワークショップにおいてもネコ対策が最優先課題として抽出されました。現在は推定 600 羽程度まで回復しています。



母島のメグロとネコの最後の見送り

2008 年、東京都獣医師会協力による**動物派遣診療**が始まりました。小笠原でのネコの飼い方について、村民からの理解・協力を得るため、ペットの健康診断をきっかけに、飼いネコの不妊去勢手術の施行・マイクロチップの装着を進めようというものです。



始まりは母島クラブハウスから



母から父へネコ搬送



クーラー代わりの氷



簡易会場で手術



派遣団と飼い主との意見交換（母島）



小笠原スタッフも手伝う



獣医師による講演会（父島）



2009 年の派遣団とスタッフのみなさん



2015 年、さらに次の段階に進むべく「愛玩動物による新たな外来種の侵入・拡散防止に関する地域課題ワーキンググループ」を設置し、ペット由来の外来種の侵入・拡散を防止するため、関係行政機関や地域の関係者、獣医師等との議論を行っています。

2017 年、5 月に開所した小笠原世界遺産センターに「**動物対処室**」が設けられました。そこで行う事業を検討・実施するため、東京都獣医師会も含めた関係機関・団体により、2016 年 10 月に「おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会（略称：**小笠原動物協議会**）」を設立しました。同協議会では、東京都獣医師会に所属する獣医師を雇用し、「外来種による被害や人為的影響等を受ける野生動物の保護」、「飼い主のいないネコ対策」、「ペット由来の外来種を生み出さないための適正飼養の推進」を行います。

2016 年、9 年間継続してきた動物派遣診療がこれまでの規模では最後を迎えました。ただし、これからもこうした取組を重ね、イヌ・ネコ含めたペットの適正飼養の推進、把握・管理について、村民の理解・協力を求めています。